視写「大切な芽」

宮本　百合子

名前（　　）

▼私は、友情というものに多くの夢をかけている者だ。どうかして一人でも一生の間には、これこそ自分の心の友としてよろこび悲しみを共にし得る人を得たいと常に思っていた。けれども、子供の時から私の生活は両親の保護でぐるりととりまかれ、その状態が長く続いたので、本当に自分の感情を流露させて深く交際する人を見出すことは難しかった。女学校時分に相当親しかった友達などでも、だんだん時が経ち、生活の様子が異なってくると、どうもぴったり心が食い合わない。正直なことをいうと感情を害し、自己の生活などを全然客観し得ない、あるままのしかも綺麗なよそ行きな部面だけを照し合わせていき合って行かなければならないのは、私にとって苦痛であり、物足りなさが増す一方であった。▲

desafiante.net